

朝日の *Asahi Welfare Letter* 社会福祉だより

発行 朝日新聞厚生文化事業団 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
電話 03-5540-7446 ホームページ <https://www.asahi-welfare.or.jp/>

Summer 2026



朝日新聞厚生文化事業団のHPでもさまざまなお知らせを発信しております。アクセスは右のQRコードからどうぞ

困窮する高校生に伴走 奨学金を初給付

地域こどもつなぐ応援金 136人に

親や親族に頼れない環境にありながら、既存の公的支援や奨学金制度が届きにくい高校生を対象とした給付型奨学金「地域こどもつなぐ応援金」の初の支給が完了しました。2025年度後期（25年10月～26年3月）分として、全国の136人に総額738万円を届けました。

この応援金は、地域の支援機関と連携することで、経済的困窮や孤立に直面する子どもたちへ金銭的な支援をすると同時に、地域内のセーフティーネットを強化し、支援からの孤立を防ぐことを目的としています。学校生活の維持や将来に向けた学習費用として年間10万円を、後払い方式で半年ごとに募集・給付を行います。申し込みには、事業団と連携する支援機関の推薦を必須にしています。

初回の実施を通して、制度の狭間にいる子どもや家庭の存在が改めて浮き彫りになりました。支援の現場からは、「社会に応援してくれる大人がいると感じられた」「支援者と子どもの関係が深まった」といった声が聞かれ、手ごたえを感じています。一方で、まだ支援が届かない家庭があることも事実です。今後は連携機関を増やす、19歳以下としている対象年齢を広げるなど、制度の枠組みを現状にあったかたちに見直し、だれも取り残さない支援をめざして進めていきます。

2025年度後期の実施状況

136人に738万円を給付 ※29人への卒業祝金含む

申し込み経路(推薦団体)	件数
全国児童家庭支援センター協議会	125
特定非営利活動法人えんじゅ	6
全国自立援助ホーム協議会	4
家庭養育支援機構	1

高校種別	人数
全日制	83
通信制	35
定時制	18

応援金を届けた子どもたちの現状

事例① 生活費をもらえない

ひとり親家庭で母親が家計を管理。子どもは生活費をもらえず、ひとり暮らしを目指してアルバイトするが、「生活保護費が減る」と母親から自立を反対される。精神疾患のある母親が包丁を振り回し、自傷行為をしたこともある。

事例② 親がアルバイト代搾取

父子家庭で、父親が子どものアルバイト代を搾取し、弟や妹の世話は長子が担ってきた。長子は、父親に半強制的に退学させられたが、高校に復学。学校に通いながら、弟や妹の食事代を稼ぐためにアルバイトをしているが、困窮状態が続く。

事例③ 父が要介護でも支援なく

父親が若年性認知症のために要介護となり、母親が介護をしながら子ども3人を育てる。事実上のひとり親家庭となったが、制度上の支援は受けられていない。物価高騰が追い打ちをかけ、生活費と教育費が家計に重くのしかかり、ひっばくしている。



地域こどもつなぐ応援金の記事を朝日新聞デジタルで無料公開中です。QRコードを読み取ってご覧ください。

事業のご報告

「未来まなび応援金」を217人に給付

自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす高校生らを対象にした給付型奨学金「未来まなび応援金」（事業団主催、カリヨン子どもセンター協力）の2026年度前期分を、各施設に5月に届けました。1人あたり半年間で3万円を上限に、高校や高等専修学校で学ぶ217人に総額634万5806円を給付し、部活動の費用や参考書代など、高校生活や将来に向けた勉強のために役立ててもらいます。

2025年度決算を承認

事業団では評議員会を6月22日に開き、退任に伴う役員改選と2025年度決算案を承認しました。その後の臨時理事会で、同日付で退任した小田桐則雄理事長の後任に、岡本順・朝日新聞社顧問を選びました。

イベントカレンダー

8月16日(日) 第43回全国高校生の手話
によるスピーチコンテスト
(東京・有楽町朝日ホール)

原稿・映像審査を経て選ばれた10人が、「旅から学んだこと」「身近に感じる社会課題」をテーマに手話で競います。会場での観覧を希望する方は、事業団ホームページから7月29日(木)必着でお申し込みください。

事業団の報告書から since1928

夢の国ディズニーランド 1957(昭和32)年4月30日～6月2日、日本橋三越本店屋上

東京都の後援、大映協賛のもとに、映画と漫画で世界的に有名な、ウォルト・ディズニー氏の創案で国際的の人気を博しているカリフォルニアの「ディズニーランド」の全容をパノラマや模型で日本に初公開。“こどもの日、を迎えるよい子のために、健全な娯楽を提供した。

昭和30年代ごろ、臨時の水族館や動物園など、デパートを会場に子どもが楽しめる催しをしばしば行っていました。「夢の国、未来の国、冒険の国、西部の国の模型」「魔法の鏡」等があり、開場式ではディズニープロ代表が祝辞を述べています。



キャラクターが描かれた「メリーカップ」。中央奥にはウォルト・ディズニー氏の紹介パネルも。

キャンパスライフ

理工学部 2年生

テクノロジーが刻々と急速に発展する現代、最新のトレンドについていき、思考やスキルを常にアップデートしていく必要があります。その過程はチャレンジの連続で、心が折れてしまうこともありえます。それでも立ち止まることがないのは、みなさまが背中を力強く押してくれる気がするからです。これからも、私は引き続き電気電子システム工学という奥深い学問に真っ直ぐ向き合っています。

芸術学部 3年生

趣味は筋力トレーニングで、最近は自宅用にダンベルを購入し、継続的に体力づくりを行っています。日々の食事についてもタンパク質やビタミン、栄養バランスを意識した自炊を心がけており、時間や費用を自己投資として健康管理に充てています。オーディオブックサービスを活用した音声学習・読書も習慣化しており、自己啓発書やコミュニケーションに関する書籍、小説などを日常的に聴くことで知識や視野を広げています。

進学
応援生
から